彙　　報

会長　国　広　哲　弥

昭和62年度第2回常任委員会

日　時：9月5日　(土) 午後1時30分～4時

場　所：三省堂内　言語学会事務局

出席者：国広哲弥（会長），荻野綱男，柴谷方良，長嶋善郎（以上，常任委員），
菊地康人（常任委員・事務局長）。
松本克己（会計監査委員）。

議　事：第95回大会について（研究発表応募原稿の審査・採択，プログラムの決定等）。

昭和62年度第2回委員会

日　時：10月17日（土）　午前10時～12時

場　所：岡山大学文学部会議室

出席者：国広哲弥（会長），井上和子，岩倉国浩，梅田博之，近藤達夫，
崎山　理，佐藤昭裕，柴谷方良，庄垣内正弘，竹内和夫，田中克彦，
田村すず子，角田太作，長嶋善郎，奈良　毅，西田龍雄，前田富祺，
村木正武，矢島文夫，藪　司郎，吉川　守，吉田金彦，ロボ・フェリス（以上23名）。

委任状：35名。

オブザーバー：松本克己（会計監査委員，第14回国際言語学者会議への本学会代表），町田　健，峰岸真琴（以上，常任委員），菊地康人（常任委員・事務局長）。

議事ならびに報告：

（1）　日本学術会議第14期の「会員候補者」，「推薦人」および「推薦人予備者」の選出方法について具体的に決定した。

（2） 当学会次期役員（会長・編集委員長・会計監査委員・委員）選挙の日程・具体的な方法等について審議・確認した。なお，年内に「選挙人名簿」を発送して遺漏に対する異議申立てを受付けることとした。

（3） 第14回国際言語学者会議について，松本克己氏から報告があった。（詳細は前号，松本氏による稿を参照されたい。）

（4） 当学会設立50年，大会通算100回，『言語研究』100号が，今後数年のうちに達成されるが，記念事業等の可能性について意見が交換され，具体的なことは次期役員に申し送ることとした。

第95回大会

期　日　　昭和62年10月17日（土）・18日（日）

会　場　　岡山大学文学部

第1日（10月17日）

開会の辞　　午後1：45～

講　　演　　第3人称について　　竹内和夫

　　生物学的立場から見た言語障害　　山鳥　重

会員懇親会　　午後5：40～7：30（カルチャーホテル）

第2日（10月18日）

研究発表　　午前9：30～12：10

◦A会場

（A 1） トクピシン語の前置詞‘long’の省略機能について　　岡村　徹

（A 2） 幼児期における形容詞・副詞・形容動詞の発達　　益田孝代

（A 3） タガログ語の代名詞移動について
——GB理論による説明——　　上山あゆみ

（A 4） ヤウル語の身体部位関連構文をめぐって　　細川弘明

（A 5） Polysynthesis in Ainu and Theories of Incorporation　　柴谷方良

◦B会場

(B 1) "This is a pen." の言えない文法なんて　田原　蒸

(B 2) モーラと音節　平河内 健治

(B 3) Interpretation of Prenominal Modifiers: an m-commanding approach to nibanme-no midori-no ball　川嶋 正士

(B 4) 現代日本語の他動詞と自動詞の対応について
——他動詞の意味的・統語的特徴を中心に——　早津 恵美子

(B 5) 動詞接辞「し」の挿入について　宮良 信詳

研究発表　午後1：20～4：40

◦A会場

(A 6) トルコ語 bir の新情報マーカーとしての機能　栗林　裕

(A 7) 中高ドイツ語における general relative clause "er ist sælec der..." の構文について　斎藤 治之

(A 8) ロシア語における具格構文の意味構造　米重 文樹

(A 9) 日本語とシンハラ語における呼称の比較対照
ディリープ・チャンドララール

(A 10) POLITENESS における SOCIAL DEIXIS と HONORIFICS に関する考察　土屋 頼子

(A 11) 日本語における方言と共通語の使い分けと台湾における閩南語と国語の使い分け　荻野 綱男

◦B会場

(B 6) Paragraphs　Th. R. Hofmann

(B 7) 談話空間分割の原理—コソア，人称代名詞，イク・クルの構造
山崎 直樹

(B 8) Empathy Perspective and Word Order in Japanese and English　田吹 昌俊

(B 9) Modal Expressions and Assertivity　守屋 哲治

(B 10) The COMP-trace Effect and Word Grammar　菅山 謙正

(B 11) 付加詞 (adjuncts) と VP の内部構造　高見 健一

閉会の辞

日本学術会議関係

日本学術会議は，本年７月から第14期に入るにあたって，昨６月，その登録団体を募った。当学会は現在第13期の登録団体であるが，第14期については改めて申請する必要があり，申請した結果，審査を経て，昨９月に第14期の登録団体として改めて認められ，12月11日付で同会議から第14期の会員候補者等を選出するよう正式に依頼を受けた。

これを受けて当学会は，第２回委員会（前掲）で予め決定していた方法に従って委員による郵送投票を行い，最終的に次の通り同会議に届け出た。（敬称略）

語学・文学研連	会員候補者	柴田　武
	推薦人	小泉　保
	推薦人予備者	国広哲弥
東洋学研連	会員候補者	西田龍雄
	推薦人	北村　甫
	推薦人予備者	梅田博之

当学会次期役員選挙とその結果について

会則，選挙規則および選挙細則に基づき，選挙管理委員会のもとに，昭和63～65年度の会長・編集委員長・会計監査委員・委員の選挙を行った。日程等および結果は次の通りである。

〔日程等〕

昭和62年12月末に全会員を対象に『会員名簿』を送付した際，国内個人会員にはあわせて「選挙人名簿」を送付した。万一の遺漏等に備えて同名簿への異議申立て期間を設けたが（前掲，第２回委員会(2)参照），申立てはなく，選挙人名簿は確定，これとともに各地区の委員定数も確定した（北海道２名，東北２名，関東33名，中部８名，近畿17名，中国・四国５名，九州・沖縄２名，計69名）。これを受けて１月20日，選挙人に対して投票用紙等を送付，２月10日（消印有効）を投票締切とし，２月18日に開票を行った。

〔結　果〕

◦投票総数　220　うち有効投票数　219

◦会長選挙　投票数　218
うち有効投票　201
白票　7
無効（白票を除く）　10

当　選	小泉　保	45 票
次　点	松本　克己	32 票
次々点	風間喜代三	21 票

◦編集委員長選挙　投票数　215
うち有効投票　181
白票　5
無効（白票を除く）　29

当　選	下宮　忠雄	18 票
次　点	松本　克己	15 票
次々点	風間喜代三	10 票
次々点	徳川　宗賢	10 票

◦会計監査委員選挙　投票数　428 (214×2)
うち有効投票　376
白票　27
無効（白票を除く）　25

最高点	小泉　保	18 票
当　選	梅田　博之	16 票
当　選	南　不二男	11 票
次　点	筧　蓉雄	10 票
次　点	長嶋　善郎	10 票

＊小泉氏は会長に就任，会則により会長と会計監査委員の兼任はできないため，南氏が当選。

◦委員選挙

選挙細則に基づき，当選者名のみを各地区別に五十音順に掲げる。

〔北　海　道〕（2名）：池上　二良，宮岡　伯人。

〔東　　北〕（2名）：加藤　正信，中村　　完。

〔関　　東〕（32名）：井出　祥子，井上　和子，井上　史雄，上野　善道，大江　孝男，大津由紀雄，大東百合子，荻野　綱男，風間喜代三，亀井　　孝，菊地　康人，金田一春彦，国広　哲弥，W. A. グローターース，　，柴田　　武，下宮　忠雄，鈴木　孝夫，田中　克彦，田村すず子，土田　　滋，徳永　康元，長嶋　善郎，野元　菊雄，長谷川欣佑，服部　四郎，原口　庄輔，平山　輝男，松本　克己，宮島　達夫，三根谷　徹，村木　正武，村山　七郎。

〔中　　部〕（8名）：浅井　　亨，鏡味　明克，清水　克正，柘植　洋一，角田　太作，日野　資純，藤本　幸夫，矢野　通生。

〔近　　畿〕（17名）：筧　　壽雄，影山　太郎，近藤　達夫，阪倉　篤義，崎山　　理，佐藤　昭裕，柴谷　方良，庄垣内正弘，杉藤美代子，寺村　秀夫，徳川　宗賢，西田　龍雄，仁田　義雄，林　　栄一，堀井令以知，藪　　司郎，吉田　和彦。

〔中国・四国〕（5名）：岩倉　国浩，関本　　至，竹内　和夫，福口　康一，吉川　　守。

〔九州・沖縄〕（2名）：早田　輝洋，松田　伊作。

＊小泉　保（中部），梅田博之（関東），南不二男（同）の3氏は，委員当選に足る票数を得たが，それぞれ会長あるいは会計監査委員に就任のため，兼任禁止

規定により，委員とはならない。(これに伴い当該地区で繰上げ当選が生じた。)

＊河野六郎氏（関東）は，委員に当選したが辞退した。(辞退者の欠員は補充しないため，関東地区の委員は32名，委員総数は68名となった。)

◦ このほか，下記 1)，2) に該当する，会費未納による自動退会者がいますが，その氏名の掲載は省略します。

1) 昭和61年12月，『言語研究』90号が発行された時点で，昭和60年度分の会費が未納であった会員は，規定により退会とみなされます。実際には多少の猶予期間を見て納入を重ねて促した後，なお一定時期までに納入のなかった44名と1団体を退会とみなしました。該当者は，昨年末の『会員名簿』からすでに削除されています。

2) 昭和62年12月，『言語研究』92号が発行された時点で昭和61年度分の会費が未納である会員は，規定によると退会とみなされることになります。こちらの該当者（若干名）は昨年末の『会員名簿』にはまだ掲載されていますが（『会員名簿』の発行と92号の発行が同時であったため），退会を望まない場合には速やかに納入するよう，2月上旬までに該当者に改めて通知しました。

◇ 受贈図書リスト（昭和62年10月1日～12月31日）

外国語・外国文学研究 10 （大阪外国語大学大学院修士会 1986）

カナノヒカリ ダイ782-783 ゴウ （カナモジカイ 1987）

神田盾夫・多恵子――記念文集―― （ペディラヴィウム会 1987）

芸備接境域方言の方言地理学的研究（町博光著） （広島女子大学 1987）

計量国語学 16巻3号 （計量国語学会 1987）

語学研究 Vol. 2 No. 1 （国際基督教大学 1987）

国立民族学博物館 調査報告集 資料一覧 （国立民族学博物館 1987）

自然語の文法理論（郡司隆男著） （産業図書 1987）

宗教研究 273 第61巻 第2輯 （日本宗教学会 1987）

ターミノロジー学（尾関周二，ガリンスキー編著） （文理閣 1987）

朝鮮学報 第百二十四輯 （朝鮮学会 1987）

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 要覧
（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 1987）

東方学会報 No. 53 （東方学会 1987）

東洋音楽研究　第52号　(東洋音楽学会　1987)

日本学術会議月報　第28巻　10月～12月号　(日本学術会議　1987)

ビビュロス　第9号　(ビビュロス同人会　1987)

民族語文　4　(中国社会科学出版社　1987)

みんぱく　10月～12月号　(国立民族学博物館　1987)

山形女子短期大学紀要　第19集　(山形女子短期大学　1987)

ユネスコ東アジア文化研究センター　1961-1986 要覧
(ユネスコ東アジア文化研究センター　1987)

ArOr Volume 55　(Academia Praha　1987)

ВЕСТНИК ЛЕНИНГРАДСКОГО УНИВЕРСИТЕТА 3
(Ленинград　1987)

Japanese Phrase Structure Grammar by Takao GUNJI
(Reidel Publishing Co.　1987)

NEWSLETTER No. 20
(Scandinavian Institute of Asian Studies　1986-87)

LANGUAGE INEQUALITY AND DISTORTION by Yukio TUDA
(John Benjamins B. V.　1986)

LINGUISTIQUE ET LITTERATURE 1
(ACADEMIE BULGARE DES SCIENCES　1987)

Litterature 8　(名古屋工業大学外国語教室　1987)

NAŠE ŘEČ 4
(Academia nakladatelstvi Československe akademie věd　1987)

Pidgin and Creole Languages by Glenn. G. Gilbert
(University of Hawaii Press　1987)

Русская Литература 3　(Академия наук СССР　1987)

Русский Язык в Школе 5　(Просвещения　1987)

◇　本誌は，文部省昭和62年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付を得て刊行されたものである。